

高退協ニュース

幡多路の

夏季学習講座

おいに盛り上がる



2002年夏季学習講座が、8月28日に、初めて高知から離れて清流四万十川のもと、四万十楽舎で行われました。

講座は、「四万十楽舎よもやま話」と題して、山下正寿氏より楽舎設立のいきさつからその目指すところ、全国から寄せられている期待などの現状が語られ、次いで第23回平尾学術奨励賞を受賞された津野幸右氏の、「イモと雑穀の民俗」について、長年の地道な調査研究にもとづく講話・サトイモを中心とした祭礼と食文化についての興味深い話がありました。

翌日の川遊びは、地元漁師さんの案内で釣その他楽しいひと時を過ごしましたが、黒尊の山散策組は、1000メートル近くの峠・鹿のホルから宇和海を眺めているうちに大雨になり、山歩きはできずじまいでした。

「八・一五平和を願う

県民の集い」開く

当日は雨模様で湿度の多い日で、冷房のない体育館は蒸し風呂のような悪条件でしたが、講演後後援者が後をたたく、「あとと懇親会でお聞きください」と、ブレイキをかけたければならない熱の入りの入りようでした。

懇親会でも炭火を囲み、テナガエビ、鮎の塩焼きなど四万十川の幸を堪能しながら、夜の更けるまで語り合い、有意義なときを過ごしました。

参加者は幡多8名津野氏の話は二度目でやや少なかった、窪川2名、高知近辺30名の合計40名でした。

高知方面からの参加者は、示し合わせていたわけでもないのに三々五々集まってきて、悪名高き家地川の堰堤(ダム)ではありませんが立ち寄り、

高校・障害児学校教研集会

「ひろげよう参加と共同の輪 もっと生かそう教育基本法のテーマで、二〇〇二年度の教研集会が次の日程で開かれます。皆さんのご参加を訴えます。

- 9月28日 (土) 教科別分科会
- 伊野商業高校 一時〜五時
- 9月29日 (日) 全体会・問題別分科会
- 高知西高校 十時〜四時半

高知高退協
事務局
2002・9・10
No.118

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内2丁目11-10
TEL 088-1822-1682
0165-0121-11893

活動日誌

【7月】

- 2日 「戦争と平和を考える資料展」自由民権記念館
- 3日 「反核平和コンサート」県民文化ホール(グリーン)
- 6日 映画「コスタリカ」県民文化ホール(グリーン)
- 7日 母親大会
- 9日 高退協事務局会
- 13日 詩の朗読(草の家)
- 14日 アジアの人々と連帯する会(草の家)
- 19日 有事立法反対集会・高校教員実行委員会
- 22日 「子どもと教育を守る会」総会
- 29日 「8・15平和を願う県民の集い」実行委員会

【8月】

- 9日 阿部先生葬儀
- 15日 「8・15平和を願う県民の集い」(高知城ホール)
- 25日 美馬先生葬儀
- 26日 高校教員実行委員会
- 28日 高退協夏季学習講座(四万十楽舎)
- 30日 沢谷裁判勝利判決祝賀会(高知城ホール)



機関誌

「三つたいきょう」

原稿募集 No.23

年末に二十三号を発行します。
文芸作品など会員の皆さんからの投稿をお願いいたします。

「近況報告」もよろしく。
原稿締切 十月二十五日
送付先 高知市横浜西町7-13
岡崎 清恵

又は 高教組気付け

草声老話

「手と足をもいだ丸太に、してかへし」鶴彬○16歳で柳誌デビュー、治安維持法違反で二度の投獄、29歳で獄死まで約300篇の作品を遺したプロレタリア川柳人(鶴彬)――大正から昭和13年まで、時流に抗し生き抜いた、鮮烈な生涯を、今この時に改めて深く思われる。(鶴彬が天逝した1938年(昭和13年)より、すでに半世紀以上を経てもう60数年を経ている。30年足らずの短い生涯の大方を、平和希求の炎のような情熱で駆けぬけた、ひとりの青年詩人のことが、何故にこれほどまでに、心を深く捕らえ離さないものであろうか。それはひとえに、彼が軍国主義体制台頭の最中であって、民衆の平和への願望を、その反戦として被支配層の立場から明確にうたいあげたことを、川柳という短詩文芸でもって代弁し、それゆえに、川柳人の密告によって29歳で獄死させられたことにある。○空、低く大砲肥えてパター瘦せ 幸泉・老人は死んで下さぬ国の大旗

「構造改革」の名による年金・医療・介護・福祉などの社会福祉や教育までも市場原理にゆだねる政策、大企業のリストラ・合理化、不良債権処理の強行、中小零細企業の倒産、失業・雇用不安の増大、大企業の海外生産と輸出安定のための自衛隊の海外派兵・戦争国家体制づくり、また教育基本法の見直しや憲法改悪の策動○目と口を塞ぐ政治が恐ろしい 桂緑○アメリカにおける同時多発テロ事件を絶好の口実とした自衛隊の海外派遣と、「有事法制」の強行という一戦争国家体制づくり。そのもとで国民に戦争協力義務を負わせ、抵抗する国民を罰する「国民総動員法」。鶴彬は何を思い、詠いあげるであろうか。胎内の動き知るころ骨がつき／屍のぬないニュース映画で勇ましい／ふるさとは病ひ一しよに帰るとこ○今日の風潮の中に、またぞろ15年戦争時代に歴史を押し戻すような動きが、為政者の蠢きに感じられるが、このときこそ、鶴彬という青年川柳人がその生命をも犠牲にして主張したものに、もう一度、素直に耳を傾ける心を持たねばなるまいと思ふ○枯れ芝よ 団結を！して春を待つ 鶴彬 (小澤幸泉)

老・眼・鏡

続 インドネシア語

西込曠
何語でもよかった。ボケ防止の最良の方策として外国語の入門を推奨するつもりだった。しかしこの目論見はみごとに頓挫してしまった。四ヶ月の学習期間をとったのに、「少しは話せる。辞書を引いて手紙が書ける」という私のレポートにインドネシア語もマレーシア語も加えることはできなかった。記憶力・集中力がこの十年間に消失してしまい、この続編もなくなるところだった。

高知大・医大の留学生を支援する会は、毎年四月末に一日ホームステイを催行している。我が家には、Suthida depaiwa と Estiningtyas の二人の女性が来た。ステイダ・デパイワはタイ人。エステニンテイアスは奇しくも我が家には初めてのインドネシア人、両親は大学教授。二人は国費留学で日本語の勉強

に来ている。インドネシアでは僅かの例外を除いて Sukarno, Suharto など全てこれだけでフルネームである。別に家族や友人などが呼び合う呼び名を持っている。彼女は Tyas (テイアス) といった。八月下旬に二人はやって来て料理を作ってくれた。野菜料理の Som Tam (タイ料理) と肉料理の rendang (インドネシア料理)。辞書を引いてみると (ルンダン、薬味をつけ油で少し揚げて黒くなった肉、マレー料理の一つ) とあった。どれも我々の口によく合っている。pisang rendang はバナナのフライ。バナナの単語としては pisang (ピサン) の他にはなかった。

ノーナマニサパヤンブーニヤン、(二回繰り返して)。ラササーヤサーヤゲン。我々の大概の者が若い頃よく歌ったこの歌は、インドネシアの俚語 Nona manis。

Nona manis siapa yang punya?

nona (お嬢さん) manis (可愛い) siapa (唯) yang (の)

punya (もの)
Rasa sayang, sayang eh!
これは掛け声のようなものらしいが意味はある。rasa (感じ、心持ち) sayang (残念な、かわいそうな) eh は感嘆詞。テイアスと家内のデュエットを聞いていると、昔歌った発音と全く同じものだった。(完)

訂正

前々号 (No.116) の「エキस्प्रेसインドネシア語」の最後の「utan punya orang」(森の人の意) は「utan yang orang」の間違いでした。訂正致します。



夏の旅 あれこれ
(1) 七月三日、開業直後のごめん・なはり線に乗って、安田の神社に向かう。山麓にできた新駅「唐茶」で下車、札所目指してへんる道をたどる。梅雨の季節にもかかわらず団体客の車に度々出会う。お寺から神社を経て頂上へ。展望台から西の林道を下る。始めての道である。安芸市と安田町の境界線上、一・五車線の舗装道路が谷に沿って下っている。「下山」の駅で上り列車に飛び乗る。安芸、後免で乗換え帰高。昼食を高知駅の構内でとる。山中では誰にも出会わない「たった一人の山」であった。

り、訪れる人が多い。七月二十九日、出発。参加者十四名。その日は滝尻近くの民宿に泊まる。二日目、滝尻から野中までの約十八キロを歩く。相当な強行軍で完歩したのは半数の七名。山中の民宿「とがの木」に泊。三日目は本宮大社までの二十二キロを歩く。神道の連続でやっと最終のバスに間に合う。その晩は湯ノ峰温泉で祝杯。最終日、八月一日は新宮の遠玉大社に立ち寄り、新大坂経由で帰高。ウソ十年前に同じコースを歩いたことがあるが、それほどの難路とは思わなかった。その時の記憶でみなさんによびかけたが、結果としてたいへんな苦勞をおかけしたと反省している。勿論古道が変わったわけではない。寄る年波には勝てないわけか。

トレッキングの道を「オートルート」と呼ぶ。直訳すると「高い道」だ。各地に〇〇オートルートがあるが、単にオートルートと言えばモンブランからマッターホルンまでの縦走路である。相当複雑な経路で、とてもすべてを紹介しきれない。ちよつぱり感想を述べるに止める。一日の行程は5、6時間。道は森林地帯、アルプの草原、ガレ場と変化に富んで、高山植物の花々にも思ったよりよく出会った。よく目についたのはエンテア、ヤナギラン等。名花エーデルワイスは絶滅に近く、ひとところひっそりと咲いていたのを見ただけ。行程中最も印象に残ったのはムーンテ小屋である。ズイナルの谷から水河を詰めた高度二八八六米の地点にある。三つの四千米級の名峰の直下であり、三方は水河に囲まれた聖域、犬飼道子さんが絶賛しているのもむべなるかなと思つた。一言で言えば、やはりアルプスの山は大きかったに尽きる。

寒泉寺残日録
坪井 幹之

俳句

6月22日 (出)
佐川町 青源寺



合田青幹

如才なき甚兵衛着たる和尚かな

田所たねを

老鶯と笈を落ちる水の音

吉本伸秋

園児らはお昼寝時か風優し

小笠原さちを

空瀧の石組跡や雪の下

大野見 源流の家

満身を風に預けて毛虫揺れ

里人に笑顔涼しく迎へらる

田所たねを

高麗の鷹の旗しき人もまた

吉本伸秋

暄しと云ふてはみたが蟬時雨

中内英明

香水をつけてお行きと妻の云ふ

溪曲るたび涼風の新たなる

万緑を来て源流の風にあふ

万緑の園に馴染みし師弟句碑

源流の水透き徹る竹煮草

万縁に抱かる村に師弟句碑

句碑育て人を育てて村涼し

源流を泳ぐ子渉る子魚釣る子



第9回日本高齢者大会

於・東京
9月2・3日標記の大会が開かれました。

「ひとりぼっちの高齢者をなくす」という運動の具体的な行動計画が提案されました。詳しくは「こうたいきょう」23号にレポート提出します。

全体会での記念講演で大谷昭宏氏は、自慢できることが少なくなった日本で、世界一の長寿国になったことは、人の命が大切にされている証しとして、これだけは譲ってはいけません。元気で心豊かに過ごせる日本をめざしているのが高齢者大会のもくてきですね。と、少年犯罪の増加への対策、そのねっこはなにか、老人や大人たちの厳しい現状からくるしわよせが、子どもへ、動物虐待へと迫ってきていること。
大人自らが、納得いかにすることはとことん学んで行動しなければと、訴えました。

国連事務総長アナン氏の言葉を引用して「アフリカでは一人の老人が死ぬと図書館が一つなくなるといわれています。高齢者は過去、現在、未来の仲介者です。」社会の高齢化は人類の重荷ではなく資産という考えを基調に自覚して帰りました。



川柳

小澤 幸泉
旅考・糖尿・新生

泥流に父母の声するイムジン河
(ソウル郊外統一展望台にて二句)
ひたすらに届けよ永遠のレクイエム
予備軍のままに戦に駆り出され
冬枯れの街に孤独を呼びつけ
二十一世紀の色を重ねて描く画布

旅のしおり



北海道で外乗

三谷隆彦
今年の夏に北海道旅行をした。主な目的は全国民主主義教育研究会の全国大会への参加と外乗である。大阪から寝台列車で正午に発ち、日本海側を経て翌朝九時に札幌へ着いた。千五百キロを二十一日間かけて走った。青函海底トンネルでは鯛や平目の舞踊る竜宮城が見えるかと予期したが、真つ暗なトンネルだけだった。札幌から釧路を経て川湯温泉へ行った。川湯から馬に乗って摩周湖の見える峠へ登った。高度差約500mどろんこの山道を一気に登った。先導者がラッパを吹き鳴らしながら行く。熊よけだそうである。そういえば熊の新しい糞がころがっている。キタキツネが現われたのに隣の馬がびっくりして跳び逃げ私の馬にぶつかった。人馬ともに苦勞して峠にたどり着いたが、霧がかかって、摩周湖は真つ白湖であった。道東は鈴木宗男の選挙地盤である。自民党の掲示板に「恥を知れ」と書き添えてあった。ムネオの悪事のうち検事が起訴できるのは氷山の一角というよりも九牛の一毛であろう。

石狩川の河口でも馬で走った。馬が海に入り、海水が馬の腹近くジャボジャボ音をたてて走った。丘の上では、はまなすの赤い花を見ながら駆け足を楽しんだ。
今回の旅で馬が馬に後ろから乗る場面に出くわした。その馬も重いそりを引かせる馬であるから特に大きくて力強い。雄馬は用がすむとさっと下りる。それを見ていた大阪から来た若妻は「はやい」と言った。私にはなんのこともわからない。

高知県高齢者大会の

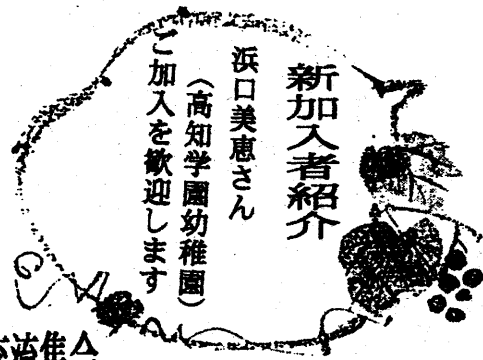
おしらせ

日時 二〇〇二年十一月九日
(十三時～十七時)

場所 自由民権記念館ホール

内容
・記念講演 「医療、介護の将来」
講師 田中きよむ氏
・文化行事
フラダンス(予定)

参加費 三〇〇円
※なお、大会に引き続いて
県連絡会総会を開催



新加入者紹介
浜口美恵さん
(高知学園幼稚園)
ご加入を歓迎します

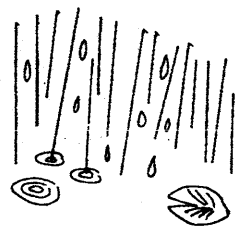
私の健康法

中岡鉄夫

① 木酢液 五〇〇cc
三百円は「とさのさと」農協特産センター南川添二二一で売っている。キャットプーパイを風呂に入れると、アトピーに効果あり、カユミがなくなる。蚊にさされない、カサカサの肌がすべすべになる。一本あれば一カ月使える。炭窯の近くを通ると木酢の臭いがする、木酢液を風呂に入れると、あれと同じ臭いがする。蚊はあの臭いが「二ガテ」らしい。

② 無臭ニンニク は疲労快復・細胞代謝・滋養強壮に効果あり、エソウコギのパワーをプラスして一カ月分八〇〇円也、これはフリーダイヤル0120(333)906「DHC」にある。送料五〇〇円。

③ 足の親指リング 手芸品店に行けば、長さ6mm外径9mm 内径4mmくらいのリング(黒色)を売っている。片方十五個両足指で三十個(三十円也)夫々ゴム紐を通し親指の大きさに合わせて結び出来上がり。夜寝る時に足の親指にはめて就寝。効果は試してみれば分かる。



松江へ行こう

高退協親睦旅行案内

期日 2002年11月5日(火) 6日(水)
行先 松江城、堀を巡る遊覧船
小泉八雲記念館、松江温泉
松江フォーゲルパーク
清水寺 精進料理
アジア博物館井上靖記念館
本の学校
申込 同封の別紙案内をご覧ください

第11回四国ブロック交流集会

ごあんない

- 日時 11月25日(月) 13:00~
26日(火) ~12:00
- 場所 香川県観音寺「かんぼの宿」
- 内容 講演 石井雅大氏「一太郎やあい」
意見交流・懇親会・観光
- 参加費 1万円
- 自家用車に乗ってグループで参加予定
- 係 岡崎会長まで連絡を

高教組だより

（人事考課制度導入の動き）
執行委員長 橋元 陽一

今年の二期期は、国体期間を休校にするために、西や南高校では八月二〇日に、他校は二六日または二八日から始まりました。国体優先の学校運営です。さて、六月三日に「人事管理の在り方に関する検討委員会」の公聴会が開催され、「第二期土佐の教育改革」の委員などの中から一三名が参加して、意見表明を行いました。東京都教委が全国に先駆けて実施し、埼玉、神奈川、大阪が導入し、香川でも二〇〇二年十二月から突然実施が強行されました。その要項では実施の目的を、「能力育成型」と称し、「評価することにより、これを職員的能力開発、指導育成、人事配置、昇給、昇任選考等に反映する業績評価を行うこととしています。教諭・講師、養護教諭、実習助手、寮母の評価は第一次評定を教頭、第二次評定を校長が行い、教育長が調整し、教頭、校長の評定は、教育長が行うシステムになっています。

高知県教委は「指導力不足教員」問題に続いて、父母県民からの「教員の資質・指導力の向上」の要求に「育成型」の評価制度を検討するとしています。しかし、全国的な公務員制度改革の流れの中で、行政権力による管理統制強化の具体化であること、同時に欧米諸国で行われている教員評価とは本質的な違いがあることを明らかにしながら、取り組みをすすめています。

第四回高退協親睦囲碁大会

日時 9月29日
会場 日本棋院高知県支部
 囲碁会館
 (大川筋1-3-39)
会費 1500円(昼食付き)
連絡先 谷内純一
 0887-55-3432
 野島辰平
 862-0488
 井上徳治
 822-9137
 西込曠
 875-9029
集約日 9月24日
主催 高退協

た。直ちに高教組として見解を表明すると共に、県教委に申し入れを行いました。九月四日には教育長交渉をもちに行われていませんが、校長の行為を事実として認めました。今後の対応について、「事実経過を伝え、教職員が組合所属を理由に不利益を被る行為は許されないこと」を文書で学校長に通知し、そのことが全教職員に伝わるように手だてを講じることを申し入れました。

この秋、教育基本法改悪阻止、人事委員会勧告制度始まって以来、初めてのマイナス勧告に対する確定闘争など、課題は山積みですが、三〇〇万署名をも含めて高退教の皆さんに共同闘争を訴えます。

九月二八日(伊野商・二九日)西で高校障害児学校教研を開催し、一一月一五〜一七日(人権・部落問題)全国研究集会が高知市で初めて行われます。ぜひご参加下さい。



相撲三知識 五十

林 勤

力士とけが・休場(1)
いま、大相撲九月場所開催中であるが、去る七月場所所では幕内四十人、十両二十六人のうち幕内十一人(うち二人は再出場したが)、十両五人が休場していた。十両以上の休場力士が十六

人というのは、一場所が十五日制になった一九四九年五月場所以来では最多、遡って戦後で見ると、終戦直後の混乱期で復員が遅れた力士や場所中に引退した双葉山らを含む十九人の休場力士のいた一九四五年十一月場所次に次ぐ最悪の場所であった。しかも、人数が多いただけでなく、一横綱三大関という看板力士の休場を含んでいた。

これは、この七月場所に特別な事情があったわけではなく、十両以上の休場者数が平成十一年から前年を上回り続けている状況なので、ことは深刻である。

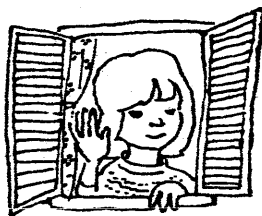
休場にはそれぞれ理由はあるが、何はともあれ十両以上の力士の四分の一が休場することは異常と言わざるを得ない。休場の原因はけが、病氣、その他いろいろあるが、最も多いのはけがである。相撲は他のスポーツに比べてけがが多いが、その原因を思いつくままに述べてみる。

まず、競技方法が、両者の身体が密着していることである。レスリングや柔道も組み合っているが、両者の間に少しの間隔があり、この間合いが相手の力や重量をかわす緩衝作用をしている。相撲はがっぷり組み合っているため両力士の重量がそのままかかってくる。相手を吊り上げると、両力士の重量——現在では平均三百kg前後——がひざにまともにかかることになる。また、体重制をとっていないこともその一つである。二、三〇kgを超す武蔵丸と小さい力士の取り組みでは百kg以上の差がある。これ程でなくても、二十kgくらいの体重差の取り組みは珍しくない。体重制がなく、小よく大を倒すことは大相撲の面白い味ではあるが、どうしても無理をするのでけがが多くなることは否めない。ちなみに、アマチュアの場合ではあるが、柔道もレスリングも体重差十kg前後ごとの七階級制である。(次回は、けが・休場と肥満、けいこ不足、過密興業などについて述べます)

勇み足



相手を土俵際まで追いつめた時、勢い余って自分の足を土俵の外に出してしまうこと。なお、吊り出しの時、相手を完全に吊り上げていけば「勇み足」にはならない。



教育基本法改悪反対

一千万署名に

引き続きご協力を！
集約は12月末までですので、まわりに運動を広げてください。
出来しだい順次高退協までお返しください。

会員の消息

小川和俊さんが高知市民病院に入院治療中です。
田坂直成さんがハビリのため通院中です。
ご快復を祈念致します。

永野順さん
昨年入院されていましたが、今は全快退院されています。遅れましたがお見舞いしました。

訃報

会員の阿部勝好さんが8月6日、美馬須美子さんが8月22日、入院治療中に逝去されました。つつしんでご冥福をお祈り致します。